

あなたの街にも「地域共生」の取り組みを！VOL.2 佐伯市鶴見 “地域交流拠点さざなみ & 生活支援ボランティアグループ鶴鶴クラブ” をご紹介します



佐伯市鶴見はかつて九州最東端にあった町。美しい自然とキラキラと輝く海岸線を眺めつつ、佐伯市内から15分ほど走ったところに、地域交流拠点さざなみはあります。

インタビューにご協力いただいたのは、メンバーの三又早子さん、大野美幸さん、平川ツガ子さん、そして佐伯市社会福祉協議会鶴見支所の皆さん。平成26年の介護保険法改正に伴い、佐伯市では全市一斉のニーズ調査を実施。その結果をもって、平成29年にボランティア養成講座が全5日間の日程で実施されるのですが、その時の受講者が、この会の初代会長や、三又さん達だったそうです。

さざなみでは、火曜日と木曜日は定例で拠点を空け、それ以外でも「旗が立っていたら空いているから気軽に立ち寄りて良い」というルールになっているそう。この日は体操教室が行われており、3名の参加者と4名のボランティアスタッフが活動をしていました。

「まずは、誰でも気軽に寄れる場所が欲しいと思って、あちこちを探して、そしてここに行き着いたんです！」と、ご紹介いただいたこの拠点は、もとは鶴見診療所のドクター専用の住宅。もう10年ほど空き家になっていたところを借りられることになり、メンバーみんなで大掃除をするところから始めました。今では「築数年？」と思わせるほどピカピカに✨
新型コロナが流行する前は、体操教室のあとにお昼ご飯をみんなで食べたり、お庭でバーベキューをしたりと、みんなの憩いの場として活用されていました。今は、飲食はできませんが、それでも参加者の顔には笑顔があふれ、会場は笑いに満ちていました！

「鶴見も広いでしょ？だから、本当は出張カフェも計画してたんです。みんなが歩いてこられるところまで出向いて、淹れたてのコーヒーや手作りのおやつでおもてなししたら、みんな“ちょっと行ってみよう”って思ってくれるんじゃないかと思って」
そうやって新しいコーヒーメーカーやオーブントースターを見せてくださいました。

ピザの試作も作ったりして準備万端だったそうですが・・・。
「もう少しの辛抱。きっともう少ししたら、できるようになりますよね」と、それでも皆さんの心は前向きです！

さて、「地域交流拠点さざなみ」を切り盛りするのは、地域のお母さん達ですが、さざなみと一緒にスタートした「生活支援ボランティアグループ鶴鶴クラブ」を切り盛りするのは、地域のお父さん達。「お互い様」の精神で、地域のお困りごと（草刈り、木の伐採、住宅の清掃など）を請け負っています！

現在30名ほどのメンバーが在籍していますが、平均年齢は65-70歳とのこと。仕事の受注もマッチングも、そして実際の活動も、会長を中心にメンバーで協力して実施しているそうです。

そんな元気な皆さんに活動のはじめるポイントをお聞きました！！



「活動をはじめるポイントは??」

まずは、**仲間を見つけること**！
1人ではできないことも、仲間がいれば一緒に頑張れます。
そして、誰よりも**自分たちが楽しむこと**。
楽しめないと長く続けられません。
最後に「**集まる場所**」があれば、きっとできますよ😊